

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年 8 月20 日

【評価実施概要】

事業所番号	1072400235
法人名	有限会社 ころ
事業所名	グループホーム ころ
所在地	群馬県甘楽郡甘楽町大字白倉557 (電話) 0274-74-4300
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成21年7月8日

【情報提供票より】(21 年 4 月 30 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 8 人, 非常勤 4 人, 常勤換算	7.5

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(無) 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	250 円
	夕食	250 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(4 月 30 日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	1 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 79 歳	最低	54 歳	最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立富岡総合病院 ・ こがはらクリニック ・ 上條歯科 ・ 公立七日市病院 ・ 安藤医
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「家族だもん、怒ったり、泣いたり、笑ったり、いいんじゃない」をモットーに、利用者が自分の個性を出しつつ、心理的に安定した生活が送れるよう、管理者と職員はケアサービスの質の向上に取り組んでいる。玄関先のウッドデッキを利用した外気浴やレクリエーション(ボール投げ・合唱・体操等)、庭の訓練コースでの歩行は、日常的に行われており、利用者が楽しみながら精神の活性化を図ったり、身体機能維持ができるよう支援している。家庭的な雰囲気の中で、利用者と職員が共に過ごし、ゆったりと生活しているホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価の意義の理解と活用については、評価の意義や目的は全職員に伝えているが、自己評価は全職員で取り組んでおらず、改善されていない。職員を育てる取り組みでは、研修の機会があれば出来る限り交代で参加している。現状に即した介護計画の見直しでは、定期的見直し期間を3ヶ月に1度と月1回モニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成している。重度化や終末期に向けた方針の共有では、事業所独自の対応指針を定め、全員で方針を共有している。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は管理者と事務長でまとめ、記載を行っており、全職員で取り組んでいない。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	概ね2ヶ月に1回開催している。事業所からサービスの状況や評価への取り組み等について報告を行い、参加者から意見や要望を聞くようにしている。出された意見等はサービスの向上に活かしている。町の担当者は、開催日・曜日等が合わず、初回のみ参加である。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議時や家族等の来訪時には、意見を言いやすい雰囲気づくりに留意し、苦情や意見等を聞くように努めている。苦情及び相談窓口(管理者)が明記されており、出された意見等は職員間で話し合い、運営に反映させている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ウッドデッキでの外気浴時や散歩時に、近隣の人達と挨拶を交わしたり、野菜を譲って頂くこともある。小学校の運動会に招待されたり、中学校の職場体験学習の受け入れを行っている。「富岡まつり」に出かけたり、敬老会に参加する等、地域の人達との交流を図っている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		○地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所が目指す地域密着型サービスのあり方を端的に示した、独自の理念をつくりあげている。		
		○理念の共有と日々の取り組み			
2	2	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念を玄関先、ホールに掲示している。職員間で勉強会や申し送り時に理念の再確認を行っており、利用者一人ひとりが理念の下、快適に安心できる生活が送れるよう支援している。		
2. 地域との支えあい					
		○地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ウッドデッキでの外気浴時や散歩時に近隣の人達と挨拶を交わしたり、野菜を譲って頂くこともある。小学校の運動会に招待されたり、中学校の職場体験学習の受け入れを行っている。「富岡まつり」に出かけたり、敬老会に参加する等、地域の人達との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		○評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の結果を踏まえ、職員会議で話し合い改善に向け取り組む努力をしているが、今回の自己評価は管理者と事務長でまとめ、記載を行っており、全職員で取り組んでいない。	○	評価は一連の過程を全職員で取り組むことで、日常のケアのふり返りや見直し等が可能となり、サービスの質の確保・向上に活かしていけるので、全職員で取り組んでほしい。
		○運営推進会議を活かした取り組み			
5	8	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回開催している。サービスの状況や評価への取り組み等について報告し、意見交換を行っている。メンバーから出された意見等はサービスの向上に活かしている。町の担当者は開催日・曜日等が合わず、会議には参加していない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	毎月、管理者や事務長が町役場に出向き、運営推進会議録を届けたり、状況報告等を行い意見交換をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族等の来訪時には、利用者の健康状態や生活の様子を報告している。電話にて報告することもある。請求書の発送時には、個々の報告や写真を同封している。家族等と金銭管理の取り決めをしており、月1回その出納を明示している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時や家族等の来訪時には、意見を言いやすい雰囲気づくりに留意しており、苦情や意見等聞くように努めている。苦情及び相談窓口(管理者)が明記されており、出された意見等は職員間で話し合い、運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は最小限に抑えるよう努めている。職員が代わる場合は、1ヶ月位、先輩職員が基本的な対応等を指導しながら共に支援にあたり、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。入職者には積極的に利用者への声かけをしてもらい、馴染みの関係が築かれるよう努めている。		
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会があれば、出来る限り参加するようにしている。認知症アカデミー研修、交換研修、救命救急講習等を職員が受講している。研修参加者は会議等で報告し、資料は回覧している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会の南部ブロックに所属し、事務長が研修委員を務めている。認知症介護レベルアップ研修や見学研修、特別講演会等に参加し、他の事業所と情報交換等行いながら、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族等からよく話を聴き、状況等を確認している。ホームの見学をしながら様子や雰囲気を見てもらい、本格的な利用に移っていきけるよう支援している。入居後も、不安にならないよう、本人の思いの聴き取りに努め、家族等の協力を得ながら徐々に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は人生の先輩である利用者から、日常の生活場面で昔の歌や調理方法等教えてもらう事も多い。利用者と職員は、レクリエーション等でお互いに笑ったり、泣いたり感情表現しやすいう工夫をしながら、共に支えあう関係づくりに留意している。		
ba					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活暦等を把握し、日常の会話や行動パターンの中から、本人の思いや意向を把握するよう努めている。家族等からも情報を得るようにしており、その情報を職員間で共有しながら本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族等には日頃のかかわりの中で思いや意見を聞き、介護計画に反映させている。カンファレンス等で職員が話し合い、それぞれの意見等を反映した利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月に1度と状態の変化に応じて実施している。月に1度モニタリングを行い、職員間で話し合い本人・家族等に確認しながら、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族等の要望や状況に応じて、受診・通院支援、買物支援、理容院への付き添い等、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に説明を行い、本人・家族等の希望するかかりつけ医となっている。家族の同意を得て、全ての利用者が協力医をかかりつけ医としている。月1回、かかりつけ医が往診に来訪しており、月2回、看護師が健康管理の為に来訪している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における対応および看取りに関する指針」を作成しており、入居時に本人・家族等に説明し、同意を得ている。家族等ならびにかかりつけ医、看護師等と話し合い、その時々家族等の意向を確認しながら対応している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応には、常に細心の注意を払うようにしている。記録等の個人情報の取り扱いに関しては、秘密保持の徹底を図るよう努めている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の生活パターンがあり全体的な動きになりやすいが、一人ひとりが退屈しないようレクリエーションを取り入れ、楽しく過ごしてもらえるよう支援している。一人ひとりの状態やその時の気持ちを大切にしながら柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量に応じて、野菜の皮むき・にぼしの頭取り・食器洗い等職員と一緒にやっている。利用者が楽しく食事ができるよう支援している。利用者の希望を取り入れながら、職員が献立を作成している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回、火・金曜日の午前・午後に入浴支援を行っている。入浴するタイミングは一人ひとり考慮している。	○	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの習慣や好みをよく聞いて、相談しながら入浴支援をしていってほしい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理の下ごしらえ・テーブル拭き・お茶入れ・掃除等、日常的に継続できるよう支援している。シルバー体操・合唱・早口言葉・ペットボトルのボウリング・編み物・ぬり絵・外出ツアー・ボランティア(三味線・ダンス)の来訪等で、楽しみごと、気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ウッドデッキでの外気浴・散歩・買物・ドライブ・季節の花見・リング狩り等、利用者が戸外に出て楽しめるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	徘徊する利用者がある為、家族の許可を得て、日中玄関扉は施錠している。	○	自分の行動をコントロールされる理由や規則を理解することが難しい利用者にとって、鍵をかけられ、自由に外に出られないことによる心理的な抑圧感や不安は大きい。職員の連携で、出て行く気配を見落とさない見守りの方法を徹底し、一人ひとりのその日の気分や状態像を把握しながら、鍵をかけずに自由な暮らしを支援して欲しい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、避難誘導訓練・消火訓練を実施している。日頃から近所の人々との交流を大事にしており、協力を得られるよう働きかけている。緊急時連絡網、マニュアルを作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を記録し、バランスが崩れないよう配慮しており、職員は情報を共有しながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先のウッドデッキでは、庭の季節の花を楽しみながら外気浴をしたり、歌や体操等レクリエーションを行っている。ホールは天井が吹き抜けで開放感があり、木材をふんだんに使用している。利用者と職員が季節に沿ったテーマの絵を描き、壁に掲示している。木製のベンチが多数設置されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、桐箆笥、鏡台、衣装ケース、人形、アートフラワー、写真、温度計等、馴染みのあるものや好みのものが持ち込まれており、安心して過ごせる場所となっているように見受けられた。		